

AJU 愛光園だより

～私たちは、誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざします～

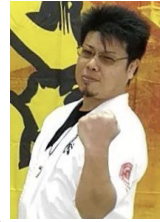


編集者：社会福祉法人 愛光園
企画総務部 愛知県知多郡東浦町緒川東米田33番3
TEL 0562-83-9835 FAX 0562-83-4344

第153号

新時代へ向けて ～守破離(しゅはり)～

阿久比町立もちの木園 施設長 堀田 学



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

いよいよ「平成」という時代の終わりが近づいて参りました。太平洋戦争、そして敗戦からの復興、高度経済成長期を迎えてからの経済大国への躍進と、まさに激動といえた「昭和」の後、様々な価値が激変した時代が「平成」であったかと思われまます。この急速な価値観の転換により、政治や経済、そして福祉についても大きく構造が変わる「新時代」へと突入しようとしております。では、このような新時代を迎えるにあたって、我々がどのように身繕いをすべきか考えた時に「守破離(しゅはり)」という新聞で見かけた言葉を思い出しました。

私は、高校時代にラグビーをやっていた事もあってラグビー観戦が大好きです。そのラグビーの4年に1度の大きな祭典「ワールドカップ」が、2019年、初めて日本で開催されます。しかも地元「豊田スタジアム」でも試合が行われるとあって、すでにテンションが上がってしまっている状態です。2015年ワールドカップでは、世界有数の強豪国である南アフリカに日本代表が勝利しました。これはとてつもない快挙で、分かりやすくサッカーで例えるならば、日本代表がブラジル代表に勝つぐらいのジャイアントキリング(番

狂わせ)でした。当時日本代表のヘッドコーチだったジョーンズ氏は、パス偏重から始まり、最後は選手の自主性を取り込んで適切なバランスを築きました。くしくも南アフリカ戦の1年前、ジョーンズ氏は「ここからは選手が自立する時期」と話していたそうです。教えに忠実なのが「守」。そこに自分なりの工夫を施すのが「破」。教えから自由に、独自の境地に達するのが「離」。これは、サッカー元日本代表監督の岡田武史さんがチーム作りや選手育成を語る際、この古典文化の言葉を持ち出していたそうです。例えば、スペインでは育成の最初から自由を与えはしない。判断の原則を授けてから考えさせる。基本があるから応用が利く。チームも同じだと言います。会社に例えるなら、部下が上司の指示を理解したうえで、でも指示に縛られず、臨機応変に事を運ぶ。そんな集団への歩みを「守破離(しゅはり)」と言います。

ここで、「守・破・離」について一つずつ説明したいと思います。

まず初めに「守」のレベルは、その道を究めるにあたって、ひたすら師の教えに従い、流儀を守りつつ、繰り返し学ぶことで、基本を身に付けるレベルだと言われています。

これを法人に例えるならば、職場において上司や先輩からレクチャーしてもらった技術や知識について模倣を繰り返しながら、発想

の土台を築く段階です。助言を基に作業を遂行できる「半人前」から、自立的に作業を遂行できる「1人前」のレベルです。

次に「破」のレベルでは、これまで学んだ概念を打ち破り、試行錯誤しながら独創性を見出すレベルです。職場においてこのレベルになると、その支援方法や業務内容を分析し、改善・改良できる「1.5人前」のレベルに來たと言えるでしょう。

そして最後に「離」のレベルとなると、様々な経験を積み重ねていく中で、いつしか従来の方法に囚われず、独自のセオリーを発見し、いよいよ師の下を離れる時期だと言われています。つまりは、新たな知識や技術を開發できる「創造者(クリエイター)」となることです。

昭和40年に愛光園が誕生してから今日まで、奇跡のように大きく広がってきたという事実は偶然では無く必然でありました。なぜならそこに創造者が存在し、またその師のもとで学んだ方々も「守破離」を経て創造者となり今日に至るのです。愛光園の基本理念にある「共に生きる社会」を実現するにあたって、この守破離の概念を応用しつつ、新時代にふさわしい創造力のある法人、提案型の法人であり続けたいと強く思います。

末筆ながら、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



アルミ缶を集めてます！

もちの木園は、知的に障がいのある方々が「働くこと」を通して自立し、豊かな地域生活を送り続けられるよう支援しています。様々な就労事業を行う中で、障がいの多様化、あるいは高齢化に伴い、既存の作業だけでは「働きたい」というニーズに応える事が難しくなっております。

そこで目をつけたのが「空き缶つぶし」という作業です。既存の作業ではありましたが、これまで小さな磁石でアルミかスチールかを選別し、足で踏んで潰すといった作業工程だったため、ごく限られた利用者しか作業に携わる事ができませんでした。そんな中、(株)デンソー様が社会貢献の一環として取り組んでおられる「はあとふる基金」より「缶高速選別圧縮機」を寄贈して下さいました。これは本当に優れもので、機械の上から缶を入れるだけで、アルミかスチールかを選別し、さらに超高速で圧縮してくれます。この圧縮機の導入により、これまで参加できなかった利用者の方々も作業が可能となり、同時に作業効率も格段に向上し、今では「リサイクル事業」として利用者の作業の確保のみならず、貴重な収入源のひとつとなりました。

ここで新たな課題が発生しました。空き缶が足りないんです…。協力して下さる方々は徐々に増えつつありますが、それでもなお不足しています。新年早々ではありますが、ひとつお願いがあります。皆さんのご家庭から出るアルミ缶を頂けないでしょうか？



この度新たに、介護老人保健施設相生の裏に「空き缶ステーション」を設置しましたので、そこにお持ち頂ければ幸いです。

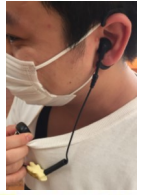


ご質問等ございましたらお気軽にご連絡下さい。
阿久比町立もちの木園 (0569)-48-3885
どうぞ宜しくお願い致します！



ひかりのさとのぞみの家と老人保健施設相生では

インカムを導入しました！その効果は・・・？



ひかりのさとのぞみの家 長坂 俊治

のぞみの家では、40名以上の身体障害者の方々が生活されています。職員は食事・排泄・入浴をはじめとした生活支援をさせていただいており、そこには職員間の連携が必要不可欠です。さらに、人員不足の中でも、支援の質の維持・向上を目指すだけでなく、休憩時間の確保や時間外勤務の削減などの労働環境の改善を図るためには、より効率的な連携が必要だと考え、インカムの導入に至りました。今回はその効果や課題についてご紹介したいと思います。

インカム導入以前は、職員への情報伝達の度に、広い施設の中を探し回ったり、ピッチ番号を確認し電話を掛けるといった手間があり、その頻度の多さから大きなタイムロスとなっていました。導入後は、ボタン1つの受け答えで所在が把握でき、内容によってはそのまま伝えることで時間削減に繋がりました。

他にも、排泄介助では、緊急性や必要性を判断しながら順番に行っており、その都度、排泄記録表や口頭で確認しなければ、要介助者が判断できず、タイムロスや重複した介助も見られていました。これらも、インカム導入後は誰にどんな介助をするのかを随時発信していくことで、情報共有がなされました。それにより、確認の手間を最小限に止め、重複した介助を削減し、事故防止にも繋がりました。

また、排泄の場面に限らず、一人が複数の介助や業務を行うときに、全職員に情報発信することで、手の空いている職員がすぐに対応できるようになりました。さらに、全体に投げ掛けられるという協力要請のしやすさや、ちょっとした疑問や不安をその都度相談できる仕組みは、特に後輩・新人職員の心理的負担の軽減にも繋がるなど、様々な効果を

得られたと思います。

今後は、異性・他職種連携を図るために使用方法を見直したり、イヤホン装着のストレスを考慮しスピーカー状態での使用も視野に入れ、プライバシーに配慮した表現方法の検討を考えています。また、のぞみの家らしく「共に」働いていけるように、インカムを通してコミュニケーションや連携の大切さを再確認するキッカケにしていきたいと思っています。

老人保健施設相生 田中 貴美

相生では今までPHSを使用していました。電波状況が悪かったり、台数が少なく持つ職員が限られていました。インカムは1日の勤務者数の数が揃えられており、通常業務だけでなく緊急時や入浴の誘導時の職員間の連絡調整をスムーズに行う事が出来るようになりました。導入時は装着の仕方が分からなかったり、インカムの本体が重く動き辛かったり、またイヤホンが合わず痛みや違和感があったりと問題がありました。導入から数ヶ月経ち、装着はスムーズになり、インカムの重さもさほど気にならなくなりました。電波状況が良く、相生から向かいにあるデイサービスセンターこぶしまで届くので、こぶしで緊急事態が起きた時の対応が今まで以上にスムーズに行う事が出来ています。

夜勤では、16時間という長時間装着していなければならないかアンケート・聞き取りを実施したところ、耳への負担の問題が多くありました。そこで対策として21時～4時までの間の緊急時はPHSで対応を行い、耳への負担を減らすことにしました。現在はほぼ問題なく業務を行う事が出来ています。

今後新たな問題があれば、都度職員間で検討し対策を講じていきたいと思っています。

にじいろフェスタに参加しました!

まどか ひかりのさとのぞみの家 相生



『地域との交流を大切に』

11月11日に開催されたにじいろフェスタに今年も参加させていただきました。綿菓子とのぞみの家の住人さんが作ったリース、ヘアゴム(くるみボタンという商品名です)、多肉植物、そしてのぞみの家の中庭で育てているメダカを販売しました。のぞみの家のブースには、毎年たくさんの地域の方々足を運んでくれますが、今年も多くの方が来てくれました。綿菓子を作っている間に行列ができ、一つ一つ綿菓子を作ることは想像以上に大変なことでした。しかし、綿菓子ができあがるのを待っている間にくるみボタンを見て「かわいい」と言ってくださり、どれを買うか悩んでいる人やリースを手にとって見てくれている方もいました。11月3日に行われた、ひかりのさとバザーでも好評だったメダカは、にじいろフェスタにおいても人気がありました。じっと観察している子供たちや育て方を聞いてくれる方、日ごろメダカを育てていて詳しい方も買ってくれました。商品に留まるだけではなく、のぞみの家という看板を見て「知ってる!」と言ってくれる子供たちや「どこにあるんだ?」と施設に興味

～にじいろフェスタを通して
ひかりのさとのぞみの家 松田 梢

を示してくれる方々が見えました。地域のイベントに参加することで、このような形でものぞみの家を知ってもらえること、興味を持ってもらえることが障がい者に対する理解のきっかけにつながればと思いながら毎年出店しています。

また、売り子として参加した住人さんのTさんは、寒い中でもお客様に笑顔を見せて、ご本人自身もにじいろフェスタを楽しまれたり、お客さんとの交流を楽しまれている様子でした。毎年代表で一人住人さんに売り子をお願いしていますが、住人さんにとって地域の方々との交流は、いい刺激になっていると思います。

来年もにじいろフェスタを通して、もっと多くの地域の方々にのぞみの家について興味を持ってもらい、知って頂きたい、交流を増やしたいと考えています。そのためにもどのようにすればよいのかということ職員だけではなく、住人さんたちと一緒に考えていければいいと思っています。(のぞみの家では、ご利用者を住人さんと呼びしています。)



『地域とつながる』 ～にじいろフェスタに参加して まどか 神谷 勇太

異動でらいふからまどかに来て、半年が経過しました。今までは地域生活支援だったため、ご本人の要望を聞き、ご利用者と一緒に出かけるという形での参加でした。まどかのご利用者は、地域のNPOがおこなう助け合い事業での外出支援で参加しているため、今年度は今までの形での参加ではなく、模擬店の出店は私を含めスタッフ2名で参加しました。出店内容は毎年恒例のご利用者が作成した織物の販売、ストラックアウトのビンゴゲームです。前日の勤務後、ゲームの景品を準備し始めましたが、段ボール6箱と多く、「こんなに景品が必要になるのか？」と少々疑問に思いながらも、4時間ほどかけて仕分けが終わりました。

にじいろフェスタ当日、天気は晴天で少し暑いくらいの陽気でした。ピカチュウの着ぐるみを着て自分もお祭り気分になったところで始まりました。食べ物の出店や衣類のバザーなどの出店が多く、ゲームの出店は少ないため子ども達が大勢並んでくれました。その中には地域で暮らしているご利用者とその親御さんの姿も多くあり、話しかけてくだ

きったり、真剣にゲームをして欲しかった景品を手にして、笑っている姿を見ると、今までと違った形で参加することで新しい発見や楽しみを見つけられました。織物作品はご高齢の方から多くの関心を寄せられ、ご利用者の日々の頑張りを見ていただくことができました。客足が途絶えることなく、昼食を食べる暇がないほどの忙しさでしたが、2歳～大人の方まで幅広い方と交流できたことが何よりの嬉しさでした。気付けば終了の時間で、片付けると段ボールは1つしか残っておらず、多くの方にまどかを知ってもらえたこと、ご利用者の頑張りを見てもらえたことを実感できました。

ひとつ心残りがあるとすれば、まどかのご利用者にも出店に参加していただき、ご利用者を交えた地域交流の場にできたらなぁと感じました。過去には一緒に参加していたこともあったそうですが、ご利用者のご意向や安全面への配慮、職員の体制上の都合など考えなければならぬ問題は多いとは思いますが、少しでもご利用者のニーズを叶え地域とつながる手伝いがしたいと思います。

第14回 社会福祉法人愛光園 実践発表会

ファシリテーターを務めて 企画総務部 日高 啓治

今回の実践発表会は、テーマを「その人らしい生き方を求めて～介護・支援の意味を問い直す～」とし、あいち健康プラザホールにて12月8日土曜日に開催しました。3事業所からの発表は、いずれも日頃の支援・介護の実践をテーマに重ねながら丁寧にまとめて分かり易くお伝えできたように思います。

1題めの知多地域障害者生活支援センターらいふからは、在宅で暮らすご本人への支援過程で、ご本人の気持ちを尊重しながらその意思に寄り添うことの難しさを報告しました。ナゴヤドームへの外出に同行した際、そこでの野球観戦をすることまではご本人の見通しに無く、当然観戦するとした支援者の意図とは違っていただけで、見立ての難しさと思いが強くなると思ひ込みになってしまうことを率直に振り返っていました。

2題めは、就職トレーニングセンターから就労につながる過程で、ご本人自らが自身の可能性を伸ばしていく様子を報告しました。ここでも本人が、就職したラーメン店で周囲のスタッフの信頼と協力を得ながら、支援者の見立て以上に活躍の範囲を拡げていく様子が頼もしく伝わってきました。

最後の発表は介護老人保健施設相生からでしたが、介護保険のサービスに移行する前には法人内の障害福祉サービス（もちの木園、

グループホーム）を利用されていた方の報告でした。癌を患ったことから通所先を介護保険のデイサービスセンターこぶしへと切り替えた時期を経て、国立長寿医療研究センター緩和ケア外来医師との連携も図りながら相生への入所、そして看取りとなった経過が報告されました。病状が進行するなか、こぶしと相生の両方で関わった看護師が、その気持ちを汲み取ることの難しさを感じながらも居心地よく過ごせるようにご本人に寄り添ったことから、支援者側の思いの押し付けではなく謙虚に向き合うことの大切さを伝えてくれました。

支援・介護の意味とは、その対象であるご本人の意思や思いを知ること、知ろうとすることから得られるものです。それは、支援者の見立てや意図を優先することではありません。そうして知り得た「その人らしい生き方」こそが、一見単純な繰り返しにも思える日々の支援・介護を、私たちが続けさせていただく意味なのではないでしょうか。

進行をしながらファシリテーターとして、そんな思いを強くした実践発表会でした。



知多地域
障害者支援センターらいふ



就職トレーニングセンター



介護老人保健施設 相生



ファシリテーター
企画総務部 日高 啓治



*発表事例について詳細が知りたい方は、法人ホームページでご覧いただけます。
アドレスは、<http://www.aikouen.jp/>です。トップページのお知らせをご確認ください。

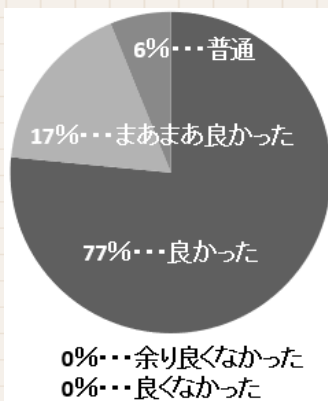


当日ご来場いただきましたみなさまにアンケートをお願いしました。
ご意見・ご感想の一部をご紹介します。

ご協力ありがとうございました。

実践発表①『ナゴヤドームに行きたい?～本人の思いを尊重するためには～』

〈発表者〉知多地域障害者支援センターらいふ 袴田 純平 佐藤 智洋

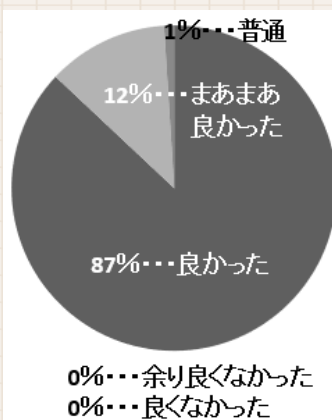


ご意見・ご感想

- ・ご本人さんの思考や心の動きを考えると同時に自分（支援者）の思考をしっかりと捉えることの必要性・重要性がわかりやすく整理された発表だったと思います。
- ・支援者のご利用者の考えというのは必ずしも一致はしないというのが分かった。自分も思い込みというのには気を付けようと思ったし、コミュニケーションのとり方なども工夫していこうと思いました。
- ・外出は大変だと思いますが、これからも頑張ってください。

実践発表②『働き出してから気づき～川浪達也さんのエンパワメントを考える～』

〈発表者〉就職トレーニングセンター 深川 麻美 青木 剛志

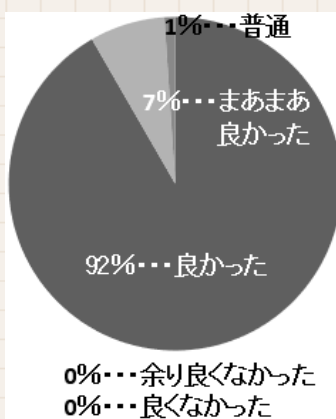


ご意見・ご感想

- ・支援者の役割として、利用者本人の生き方支援とともに地域につなげ、社会の力としていく社会づくりの一面がある！それを実証する発表だったと思います。
- ・上限を支援者が勝手に決めない。いろいろな方面の方の声、支援によって、より本人の持っている力を引き出すことが出来ることを教えていただきました。
- ・好きな環境を見つけると人って変わるんだなと思った。

実践発表③『その人らしさに寄り添う～小川看護師との関わりを通して～』

〈発表者〉介護老人保健施設 相生 山本 梨恵 小川 朋美



ご意見・ご感想

- ・支援者と利用者さんの「人と人」としてのつながりを感じたとてもステキな発表でした。全体討論を通じて、お一人の利用者さんに沢山のスタッフさんの沢山の想いで支えられていることを知りました。他法人で働いていますが、愛光園さんの関わりを、法人で共有したく思います。
- ・何ができたではなく、どう寄り添ったか。どう向き合えたかが大切だということ、心に刻みました。
- ・職員さんの対応、最後まで本人様の気持ちを大切に本人さんも家族の方も幸せに過ごされ支援されました。こんな施設に自分もお世話になりたいです。

平成三十一年一月一日発行 (増刊) (毎週火曜日) 発行所・東海身体障害者団体定期刊行物協会 名古屋市中区丸の内三六四三三 みこころセンター四階 定価一〇〇円

第44回ひかりのさとバザー

バザー委員長 桑山 利和



第44回ひかりのさとバザーを無事開催することができました。ご家族をはじめ、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

バザー当日は天候に恵まれ、多くの方に楽しんでいただけたと思います。

今年度は、バザー売り場を縮小しフリーマーケットや休憩スペースを拡大したり、「知多娘。」という地域活性化と若者を盛り上げることを目的としたご当地アイドルに協力してもらったり、職員宿舎建設のため駐車場が狭くなったり、SNSを活用して宣伝したりボランティアを募ったり、様々な取り組みを行いました。上手くいったこともあれば、来年見直しをしなければならないこともあります。

今後「ひかりのさとバザー」とうたいながらも、バザーは縮小して、地域交流や楽しみを主眼としたものになっていくことでしょう。バザーを通じて、障がいの有無にかかわらず、お互いを認め合い助けあえる社会にしていきたいと思っています。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

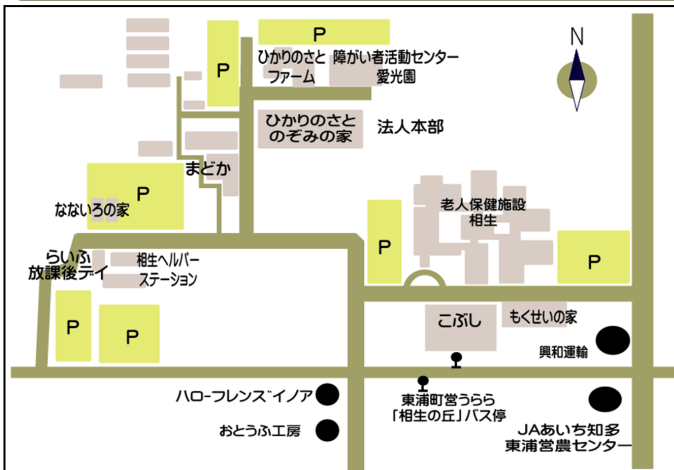


ひかりのさと案内

- ▶ JR東海道線大府駅下車、タクシー(15分)が便利です
- ▶ 東浦町営バス(うらら)停留所「相生の丘」から徒歩2~5分

社会福祉法人愛光園HP

URL:<http://www.aikouen.jp/>



知多半島 春の国際音楽祭2019

知多半島春の国際音楽祭は、「みんなでつくる音楽半島」を合言葉に知多半島5市5町の街中で開催されます。そんな音楽祭が、介護老人保健施設相生にもやってきます！ぜひお越しください！（以下の公演はすべて相生で開催されるものです。）

🍌 トライマム 演奏会

2月1日(金) 14時~15時

フルート、キーボード、歌の演奏会です。一緒に楽しいひと時を過ごしましょう。

🍌 半田市民吹奏楽団

2月2日(土) 14時~15時

会場にいらっしゃった皆さんと楽しい時間を過ごしたいです！

🍌 みんなで歌おう~愛多いコンサート

2月11日(月) 14時~15時

「唄う地産地消」として地元を中心に音楽活動をしています。今回は生まれた町でのコンサート。(出演:村松愛子さん他)

🍌 みんなで楽しもう♪♪夢風船ライブ

3月5日(火) 14時~15時

夢風船のオリジナルソングをはじめ、童謡や唱歌をみんなで歌って楽しみたいと思います。皆様に笑顔をお届けできれば幸いです。

🍌 武豊ハーモニカサークル演奏会

3月8日(金) 14時~15時

武豊公民館を練習場所として、一昨年25年を迎え、25年のベテランから2~3年のメンバーまで17名で歌謡曲を中心に演奏しています。一緒に楽しいひと時を過ごしましょう。

お問い合わせ:相生 0562-84-3100 まで